



カスピ海は海なの、湖なの

塩の湖

カスピ海は、ロシア・カザフスタン・トルクメニスタン・イラン・アゼルバイジャンの国々に囲まれた、世界でいちばん大きな湖です。面積は、37万1000平方キロメートル、日本の本州の約1.5倍で、湖の形はS字型をしています。水深は、最も深い所で、943メートルです。

湖の水に塩分(平均のこさ12.6パーセント)がふくまれているので、海ではないかと思われがちですが、陸地に囲まれていて海とはつながっていないので、湖です。

湖面の標高は下がり続けている

湖面の標高は、海面より28メートルも低く、現在も下がり続けています。それは、湖に流れこむ水の量よりも、湖から蒸発する水の量のほうが多いためです。湖の岸にアシが生える湿地帯や塩の固まった地帯が広がり、湖の面積が少しずつ小さくなっています。

湖面が下がり、環境が悪くなるのを防ぐために、まわりの川の流れを変えて湖に流れこむ水の量を多くしたり、植林をして緑地を広げるなどの計画が立てられています。

チョウザメやニシンがとれる

カスピ海は漁業が盛んで、ニシンやチョウザメなどがとれます。このチョウザメの卵は「キャビア」といわれ、貴重な食べ物になっています。(監修・国司 真)

